



松明

(令和2年7月発行・隔月発行) 2020 vol.4



P3 コロナに負けない!～元気に療育活動中part2～より

新型コロナウイルスに対する当院の取り組みについて

経営企画室長 畠山卓士

今年は、本来であれば東京オリンピックの年で、聖火リレーがここ福島から始まり、このたいまつが発行される頃には県内で野球やソフトボールの競技が開催される予定でありました。

ところが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界に猛威を振るい、未知なるウイルスとの戦いの渦中にあり、オリンピックは1年延期される事態となっています。

これまでの常識とされた生活様式が根本的に見直す必要があるなかで病院のみならず、他の事業者も感染対策を強いられているところです。

当院でも原則、面会を禁止としウイルスの持ち込みを防止するため4月6日から正面玄関で入館を正面玄関に絞り、トリアージ（検温及び問診）を実施して現在も継続しています。

当院に受診や入院される患者様は、新型コロナウイルス感染症に発症した場合、重篤な状況に陥ることが大いに推測されることから、受診される患者様やご家族様、事業者様などに至るまでトリアージにご協力いただきお手数をおかけしているところですが、感染防止のためご来院される場合は引き続きご協力よろしくお願ひします。

当院の職員も就業前の体温測定および健康状態の確認

を行う等の体調観察の強化、病院内でのマスク着用、アルコール製剤による手指消毒の励行および啓発の強化など職員全員で感染防止に取り組んでいます。さらに、感染防御について動画を作成し委託業者を含む職員が視聴し、感染対策の知識を深める取り組みを行っています。

また、このたいまつが発行される頃には、オンライン面会が開始される予定となっており、ご家族様のご不安が少しでも軽くなればと思っております。

新型コロナウイルス感染症との戦いはしばらく続くことが予想されています。職員一人一人が感染防止を意識し、当院の理念である「納得の医療で地域や社会に貢献」を実現して参ります。



本号のご案内

- 新型コロナウイルスに対する当院の取り組みについて … 1
- 看護部日より 院内研修の紹介 … 2
- 療育日より わかくさ通信発行 … 3
- コロナに負けない!～元気に療育活動中part2～ … 3
- 看護学校日より 遠隔授業を実施して … 4
- 遠隔自宅実習、講義を受けて … 4
- 健康プラザ 透過するX線はどうやって写真にするの? … 5
- 地域医療連携室日より 登録医のご紹介 … 5
- 外来担当医表 … 6

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

看護部では6月から7月に3つの研修を行いました。

① リーダーシップ研修（キャリアラダーレベルⅢ）
6月11日、7月3日

当院では「倫理的思考のもと対象を科学的に捉え、協働で対象の持てる力を引き出す看護師」の育成を目指し、1年目の卒後教育から中堅・ベテラン看護師の継続教育まで、誰もが学び・成長し続けられるようにキャリアラダーによるキャリア形成の支援を行っています。

リーダーシップ研修はキャリアラダーレベルⅢであり、個別性を重視した看護実践者として、後輩に支援的役割を果たせることを目標としています。研修内容は、リーダーシップ・リーダーとは何か、求められる能力やコミュニケーションスキルについて学びました。研修を通し、リーダーだけが頑張るのではなく、メンバーがリーダーシップを発揮できるように動機づけることの大切さ、コミュニケーションの傾向を見直す機会となった等の意見が聞かれました。これから患者さんの個別性にあった看護を、チームスタッフ・多職種を巻き込みながら実践し、看護の質を高めるために活躍してくれることを期待しています。



② リフレッシュ研修 6月25日

新人看護師を対象にリフレッシュ研修を開催しました！

働きはじめて約3か月が経過し、緊張の強かった入職時に比べ病棟内で患者さんや先輩とのコミュニケーションを取りながら率先して動く、頼もしい姿も見られるようになりました。同時に張りつめていた緊張や看護師としての責任を自覚することで、新たな不安や疲れが心身の体調の変化として表れてくる時期でもあります。今年度は新型コロナウイルス流行のため、歓迎会や同期での交流の機会を中々持つことができない中で、今抱えている思いや悩み、実践している気分転換方法、流行が落ち着いたらやりたい事等をたくさんのお話について話し、同期の悩みに共感したり、時には助言をしながら和気あいあいとした時間を過ごしました。

短い時間ではありましたがリフレッシュし、仕事への活力を養うことができましたと思います。

ここからまた気持ちを新たに、一緒に頑張っていきましょう！

③ 人工呼吸器研修 6月8日、18日、7月2日

新人看護師が働きはじめて約3か月が経過し、徐々に重症度の高い患者さんを担当するようになってきました。当院では全ての部署に人工呼吸器を装着している患者さんが入院されているため、人工呼吸器の基礎として①呼吸生理と人工呼吸器の役割②人工呼吸器のアラーム対応③人工呼吸器のモードと当院の人工呼吸器の3回構成で研修を実施しました。研修は講義の他、臨床工学技士の協力のもと、マスクをつけて患者体験等も行いました。

今回の研修が、人工呼吸器を装着している患者さんの看護ケアに活かされるように、振り返りや継続して学習していけるように支援したいと思います。

現在、病棟への面会制限が続く中ですが、療育指導室では活動の様子を伝えるべく5月には『わかくさ通信45号』を発行いたしました。各病棟の様子を写真とともに紹介し、裏面には、看護部から患者様それぞれの現状を記載した内容を本人の写真とともにお送りさせていただきました。ご家族への連絡をする中で、「看護師さんのコメントで安心した」といった感想をいただくこともあり、特に写真については、「元気そうで安心した」「本人の様子が見られてよかった」などの言葉をいただく一方、「ますます会いたくなかった」などと話されるご家族様もあり、取り組みの手ごたえと次の課題をいただいたという印象でした。7月に『わかくさ通信46号』を発行する予定です。

国内外の感染症の状況が依然として厳しい状況で、ご面会ができないことによりご家族をはじめ多くの方にご

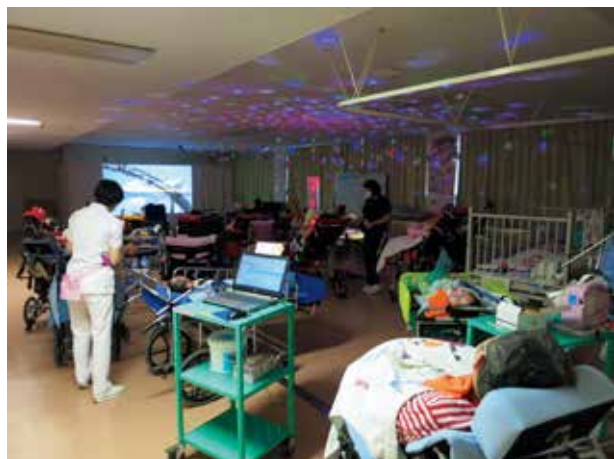
不便やご心配されている事もあるとは思いますが、楽しい時間が過ごせるよう療育活動を盛り上げ、ご家族には皆様の様子をお伝えできるよう様々な方法を検討していきたいと考えております。



重症心身障害児(者)病棟では現在も感染予防対策のため面会制限や、行事・全体療育中止の状態が続いていますが、その中でも元気に療育活動を実施しています。5月に花の種を植え、成長を楽しみに毎日の水やりを行っています。梅雨の晴れ間に、外に出られる日にはベランダやバルコニーでの日光浴の機会も増えました。病棟内での活動がほとんどですが、雨や曇りで薄暗い環境を活かし、様々な光を使って遊ぶスヌーズレンや、ミ

ラーボールで雰囲気ばっちりのカラオケ大会で大盛り上がり。梅雨のどんよりとした気分も一瞬で吹き飛ばす勢いです。

病棟内から明るくなるよう患者さんと一緒に、季節に合ったプレイルーム装飾の製作もしています。まだまだ終息とはいえない状況ではありますが、明るい元気の療育活動を展開していきたいと思っております。



看護学校だより 遠隔授業を実施して

附属看護学校 教員 梅宮綾子

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け、当校の学生は4月22日から5月22日までの1か月間自宅待機となり、それに伴い私たち教員は学校から遠隔授業を実施することとなりました。

急なことでしたが病院職員の方から多大なる協力を得て、遠隔授業を行うためのパソコンの設備をしていただき、学生が自宅待機となった2日後より授業を開始することができました。初めての遠隔授業で、どうすれば学ぶべき内容を伝えることができるのか戸惑いましたが、教育主事をはじめ教員の皆さんから助言やご協力をいただき、無事授業を実施することができました。

この1か月間、メールやビデオ電話ツールを用いた授業を通して感じたことは、人と人との関係性を築くことの必要性です。現在在籍している3年生とは入学してからの2年間、授業や実習、クラス行事の場面等で多く関わる機会がありました。メールの文章を読むだけでその学生の顔や話している様子が目に浮かび、文章には書かれていない行間からもその人の内面が滲み出てくるようでした。機械を用いて会話したとしても人が人であ

ることには変わりなく、その学生がどういう個性を持っているかをふまえながら関わることを心がけていました。

先の見通しがつかず不安に感じる時もありますが、このような時だからこそ相手のことを理解しようと努め、思いやりをもって接することが特に大切であり、今の自分がなすべきことを見失わないよう、学生と共にこの1年間を乗り越えたいと思います。



看護学校だより 遠隔自宅実習、講義を受けて

附属看護学校 15回生 吉田紅亜

新型コロナウイルス感染拡大防止における三密を避ける為に、入学してから初めて各自が自宅で講義・実習を受けました。最初は今まで使ったことが無かったアプリをダウンロードし、課題をパソコンや携帯電話で作成し提出するなど慣れない事が多く、周囲に質問しながら行っていました。また、インターネットの接続が良くないことも多く、起動に時間が掛かってしまうことが度々ありました。しかし、自宅学習期間を経ていく中で使い方も慣れ、先にその日の予定と提出時間が明確に記されている為、空いた時間を看護師国試試験問題に取り組む時間にするなど、効率的に学習することができました。

また、先生方が国試問題を実習に合わせて出題され、間違えた所のアドバイスをしてくれた為、自身の苦手が分かり知識の定着に繋がる事ができました。それだけでなく看護技術のDVDを視聴した事により、看護技術の再確認と患者さんへの声掛けの仕方を動画で学び、虐待

や認知症高齢者に焦点を当てて実際の新聞記事やインターネットを元に、そこからどのような法律や施設が関係してくるのか、どのように自身だったら接するかといった考え方を深める事もできました。これからも十分に感染対策を取りつつ、学び続けていきたいと思います。



X線は、1895年にレントゲン博士が実験から偶然発見したことが始まりです。物体を透過し中の様子を観察できることから、医療ではX線撮影（単純写真やレントゲン写真）に使われています。しかし、透過したX線をそのままでは見ることはできません。どうやって、なんでも透過するX線を写真にしているのでしょうか？

以前は、X線写真はX線フィルムを使用していました。X線フィルムといっても普通のカメラのフィルムとサイズ以外はかなり似ています。このフィルムにX線を照射したとしても、そのX線の大半はフィルムを透過してしまい、写真にするのは容易ではありません。そこで「増感紙」を用います。増感紙とは、タンブステン酸カルシウムなどをプラスチック板や厚紙に塗布したもので、X線が当たると発光する性質を持ちます。この光

によってフィルムを感光し写真を作ります。この増感紙を用いることで、1/100ほどのX線で写真を写すことができるようになりました。

X線撮影もデジタルカメラのようにデジタル化が進みました。フィルムを使わなくなった現在でもX線を光に変換する技術は使われています。CTの検出器や放射線測定器、フィルムに変わりX線撮影の主流になっているヨウ化セシウム（CsI）など使ったフラットパネルディテクター（FPD）によるデジタルX線撮影など、X線を光に変換する技術は現在の放射線科を大きく支える技術になっています。



地域医療連携室だより

登録医のご紹介

医療法人 西間木医院

- 院長：西間木 友衛 先生
- 医師：西間木 智恵子 先生
- 診療科目：内科・リウマチ科・アレルギー科・皮膚科・小児科：消化器科
- 専門外来：リウマチ専門外来
膠原病専門外来
- 専門医：総合内科専門医
糖尿病専門医
リウマチ・膠原病専門医
小児科専門医

院長の西間木友衛先生は、リウマチ・膠原病の専門医です。診療においては鑑別診断を行い、確定診断をしたうえで、病態・家庭環境・経済的環境などを考慮し、患者さんに適した治療を行うことを心がけていらっしゃいます。

患者さんは周辺地域はもとより、県内、県外からも来院しております。

在宅療養支援では、訪問診療や通所介護事業として「菜の花デイサービス」を併設しており、在宅療養の支えとして地域医療に携わっていただいております。



診察時間

外来受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00			●					
9:00～12:30	●	●			●	●	休診日	休診日
14:00～17:30	●	●			●			

休診日：木、日、祝

備考：水曜日12時まで 土曜日12時30分まで

診療時間・内容等について、事前に必ず医療機関に直接ご確認ください。

●住所：

〒962-0813 福島県須賀川市和田字弥六内356-4



0248-76-3400

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和2年7月1日より】

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内 科 2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内 視 鏡 検 査				安田千尋	
脳 神 経 内 科	伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小 児 科	福島医大	石井希代子	福島医大		河原田勉
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		石井勉			河原田勉
専 門 外 来 (小児神経外来)	石井希代子 (第1・3) 平山恒憲 (第2) 再来のみ		石井希代子 (第2・4・5)	加藤朝子 (第2・4)	
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃井伸緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来	予 防 接 種 (午後)				
整 形 外 科	古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小 児 外 科				清水裕史	
脳 神 経 外 科		福島医大 (第2・4)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

●受付時間は午前8:30～11:00までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。

●外来担当医表は令和2年7月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認ください。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)

診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

一旦落ち着いた新型コロナウイルス感染症ですが、大都市圏では再度感染者が増加し地方への拡大が懸念されています。当院としては、外来や入院ではいろいろと煩雑になることもあると思いますが、気を緩めることなく感染対策を着実に継続し、患者さんと職員の予防に努めていく所存です。ご協力のほどお願いします。(編集委員 I.T)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 福島病院

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地

☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>